



# アハバール・カシオン



第 2 8 3 号  
JICAシリア事務所  
2020年7月29日

## ★2020年7月～9月の予定★

### 【事務所関係者の動き】

#### アンマン勤務(JICAヨルダン事務所内)

宮原 千絵	所長(ヨルダン事務所長兼務)
柳 竜也	次長(ヨルダン事務所次長兼務)
今村 誠	職員(ヨルダン事務所兼務)
成田 英幸	職員
高島 淳	企画調査員
宮越 麻衣子	企画調査員
高井 史代	企画調査員

### 【公休日】

7月23日	海の日(日本)
7月30-8月3日	Eid Al Adha (犠牲祭)
8月20日	Islamic New Year (イスラム暦新年)
9月21日	敬老の日(日本)

### 「アハバール・カシオン」

#### ～名前の由来について～

「アハバール」とはNewsを意味するアラビア語。「カシオン」とはダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名前です。

◇アハバール・カシオンのバックナンバーは以下URLよりご覧いただけます。

<https://www.jica.go.jp/syria/office/others/newsletter.html>

### ●お知らせ

アハバール・カシオンは[JICAホームページ](#)からのみご覧いただけます。

2020年3月中旬以降、新型コロナウイルスに対する感染拡大防止策としてヨルダン国内にて外出禁止令が発令されたことにより、2020年4月のニュースレターの発行は延期といたしました。なお、今後は通常通り四半期に一度の発行を予定しています(原則4・7・10・1月)。

### ●事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

本号では、シリアおよびレバノンでの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応状況、レバノンにおける学校改善計画の統合にかかる事業報告、レバノンからの課題別研修参加者の寄稿(英文)、ダマスカスで愛される桑の実についてのコラム等を掲載しています。

### ●COVID-19特集

#### 戦争の中の戦争

—新型コロナウイルス感染症—

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対して、完全に対処できている国はないと言っても過言ではありませんが、シリアにおける人々への影響は特に深刻です。

世界中でロックダウンが始まった3月、COVID-19の蔓延を防ぐため、シリア国内でも国境・学校・レストランが閉鎖され、県間の人々の移動が制限されました。7月26日までに、シリアでの感染者数は627人に達し、そのうち191人が回復、36人が亡くなりました。

シリアの医療制度は紛争により崩壊し、未だ復旧していません。医療施設の一部は故意に爆撃・破壊されたため、医療体制はさらに脆弱になっています。医薬品・医療用品は依然として不足しており、紛争前と比べて医療従事者の70%近くが国を離れています(UNOCHA, 2020)。COVID-19流行前から、国境閉鎖は国外からの支援に影響を与えており、特に医薬品・医療用品の深刻な不足をもたらしています。

COVID-19による公衆衛生上の懸念に加え、9年間の紛争によりシリア経済

は急激に悪化、特に昨年は現地通貨であるシリアポンドの価値が大幅に下落しました。COVID-19の発生は、シリア人の大多数、特にインフォーマル・セクターで雇用されている人々にとって、最悪のタイミングだったと言えます。多くの人々が日雇い労働またはインフォーマル・セクターで働いてお



シリア北西部イドリブの結核対策センターで、来訪者の検温を行う様子。

出典: WHO, *How WHO is supporting refugees and migrants during the COVID-19 pandemic*

<https://www.who.int/news-room/feature-stories/detail/how-who-is-supporting-refugees-and-migrants-during-the-covid-19-pandemic>

り、ロックダウンによる影響を特に強く受けています。

シリア人の大多数はすでに貧困ライン以下の生活を送っており、働か

ず家にいるだけの余裕がありません。日雇い労働者、タクシー運転手、小売商店主は自宅で仕事することはできず、かといってただ自宅

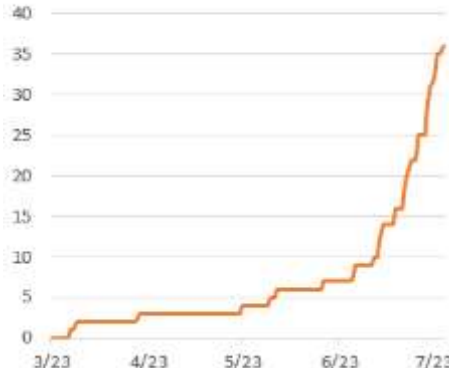
にこもりウイルスから身を守る、ということもできません。たとえ自分や他人を危険にさらしても、家族の生活を維持するため、彼らはCOVID-19封じ込め措置を無視し外に出るしかありませんでした。彼らにとって、飢餓の脅威はCOVID-19感染の脅威よりも大きいのです。

多くのシリア人にとってCOVID-19によりもたらされた状況は厳しいものでしたが、ロックダウンの間、困っている人々にパンや食べ物を配布したり、仕事を失った人の支払いを肩代わりしてあげた人は少なくなく、賃貸経営者の多くは家賃の支払期限を延期とするなど、人々はお互いへの愛情と思いやりによって、多くの困難をともに克服できることを示しています。(マラハ・モラッド シニア・プログラム・オフィサー)

感染者数（累計）



死者数（累計）



シリアにおける新型コロナウイルス感染者数・死者数の推移

出典：WHO, *Coronavirus Disease(COVID-19) Dashboard, Syrian Arab Republic*  
<https://covid19.who.int/region/emro/country/sy> より作成 (2020年7月26日現在)

## ●COVID-19特集

### レバノンの二重危機 革新的なビジネスを通じた回復力

最初の新型コロナウイルス感染症例がレバノンで確認されたのは2020年2月21日でしたが、地中海に面するこの小国では既に前例のない経済危機に直面していました。事実上の緊急事態宣言となる「総動員 (General Mobilization)」が3月15日という早い段階で宣言されたのは、初期の感染拡大を抑える上で効果がありましたが、低迷している経済と被雇用者や日払い労働者の生計に大きな負担をもたらしました。

このような状況の中、レバノンの若者は起業家精神を示しつつ素早い行動を取りました。JICA課題別研修の元研修員で、経済通産省知的財産事務所の知的財産コンサルタント兼上級商標検査官Hanan Abi Ghanem氏は、保健衛生と経済の二重危機は、レバノンの若世代の革新的な起業家精神に火をつけた、と語ります。彼らは新たな問題の発生を好機とらえ、解決策を見出しました。経済通産省は、新規ビジネスの立ち上げ登録と、知的財産保護のための新たな特許申請の波を経験することとなったのです。

Ghanem氏は、「直接投資を促すための知財制度整備に向けて」のJICA



課題別研修で来日した  
Hanan Abi Ghanem氏 (右から4人目)

課題別研修を2015年末に受講しました。彼女はこの研修で、企業活動を促進するために、知的財産に関する法的かつ組織的枠組みをどのように強化していくのか、貴重な見識を得ました。研修受講後、Ghanem氏は、学校や大学を対象に知的財産権に関する積極的な啓発活動を行ってきました。また、必要性が高いとされる知的財産関連法案への支持を取り付けるため、国会議員にも働きかけました。これらの活動は最近の社会経済の不安定化により遅れが出ていますが、経済産業省の同僚や関係者とともに、品質マネジメントの国際規格であるISO9001:2015の企業への導入支援に加え、世界知的所有権機関(WIPO)の協力を得ながら、商標・

特許・著作権・工業デザインの分野での制度発展を見据え活動を継続しています。レバノンの国としての財産はまさに人的資本にあるため、経済産業省は2019年の戦略報告書で概略を示したように、知的財産権の問題に焦点を当てています。

最も注目すべき傾向は農業技術と保健分野での特許登録の増加にある、とGhanem氏は言います。レバノンにおける最近の食料品価格の高騰によって、各世帯が裏庭、バルコニー、あるいは故郷で家庭菜園を設けるようになる中、農業セクターは例外的な成長を遂げています。この傾向に対応するように、新たに設立されたDouda Vermiculture Solutions社は、ミミズを活用した堆肥製造 (Vermicomposting) における革新的な技術で特許を取得しました。この技術により、生ごみの発生元である各家庭では、収納スペースをとらない特殊なゴミ箱を使用し、短時間かつ無臭で、生ごみのリサイクルが可能となりました。出来上がった堆肥は、あらゆる作物の生育を促進する土質改良剤として使用できます。同社は、この技術に関するコンサルタント業務やトレーニングの実施も

行っています。

最近登録されたもう一つの農業関連技術は、農業生産者と消費者をつなぐデジタル・プラットフォームの「Izraa」です。購入者はオンラインで新鮮な農産物を選び、配送してもらうことが可能になりました。コロナウイルスに対する感染リスクを抑制しつつ、農業生産者から直接消費者に農産物を販売することを促し、仲買人のコストを削減することができます。

保健衛生分野では、短時間で広範

囲に除菌液を散布する「コロナウイルス殺菌用ドローン」が特許登録されました。この発明は、映画館・商業施設などの人通りの多い場所で、衛生上の安全性を確保するために非常に有効です。また、もう一つの感染抑制方法として「除菌トンネル」が特許登録されました。このトンネルは、実際に主要なスーパーマーケット、ショッピングモール、政府機関のオフィスの入口に設置され、活用されています。このアイデアは簡単でありながら巧妙で、顧客が公

共の場所に入る前にトンネルをくぐると、除菌液が散布されます。

以上の例は、レバノンの人々の回復力と意欲を示す証拠であり、「必要は発明の母」という有名な格言が正しいことを示しています。

(ゼイナ・カラフ ローカル・コーディネーター)

◇アハバール・カシオンでは読者のみなさまからの寄稿・写真投稿を募集しています。お気軽にお問い合わせください。  
メール：sr\_oso\_rep@jica.go.jp

## ●事業報告

### レバノン学校改善計画（SIP）の統合支援

レバノン教育・高等教育省は、すべての子どもたちに平等な教育機会と質の高い教育を提供する目的で、学校改善計画（SIP: School Improvement Plan）を実施していま



パイロットプロジェクト校における理科の授業の様子

す。同省は、これまでに様々な援助機関と共にSIPを実施しており、JICAは2017年度にシリア難民ホストコミュニティ支援関連のパイロットプロジェクトの中で、ベイルート市内の5校を対象にSIP実施を支援しました。

同省の計画で、2020年度からSIPが公立小中学校で展開されることになり、各援助機関が作成した複数のSIP実施ガイドラインを統合する必要が生じました。同省からJICAへの支援要請に応え、シリア事務所は複数のガイドラインの内容を比較検討し、関係者と定期的な協議を経て、2020年3月にSIP実施ガイドライン最終案を取りまとめました。2019年7月の作業着手以来、レバノン人ローカルコ

ンサルタントを中心に、各ガイドラインの内容を検討し、JICAの田中紳一郎国際協力専門員（教育）による技術指導を得ながら統合作業を行いました。SIPは、教育の質と学習環境を改善する目的の下、活動の主体である生徒の父母を含む学校関係者が参加型で立案した計画を実施するプロセスとなっています。レバノンでのJICAパイロットプロジェクトと他国のケースにおいて、SIPの効果が確認されており、今後成果の発現が期待されます。レバノン国内の公立小中学校には、経済的に困難なレバノン人家庭の子どもたち、シリア人難民の子どもたちが多く在籍しており、SIPの本格的な実施も含め、国際社会からのさらなる支援が望まれています。（高島淳 企画調査員）

## ●寄稿

### 本邦での課題別研修（下水処理分野）を終えて

**Course name:**  
On-Site Wastewater Treatment System, August- September 2019

**Name:**  
Nadine Barnaba, Ministry of Energy and Water, Beirut-Lebanon

It was a great experience for me to attend the training course "On-Site Wastewater Treatment System" at JICA Kyushu Center, for a period of 27 days. The course was very well structured with lots of site visits that helped me in consolidating the ac-

quired information.

This course gave me the chance to learn about a new technique in treating domestic wastewater. It is "Johkasou System" which is very well used in Japan. The system treats domestic wastewater in rural areas where wastewater treatment plants cannot be installed due to high cost of construction or difficulties in building connection pipes. The system includes anaerobic and aerobic treatment, and the water is disinfected with chlorine before the effluent is discharged to environment.

BOD level is decreased to very low levels.

In Japan there is a legal framework called Johkasou Act which regulates the role of parties taking role in construction, maintenance, inspection, and cleaning of the system in order to ensure the proper treatment function.

Besides we visited wastewater treatment plants, an industry that developed small scale wastewater treatment technology, and recycling plants. During the site visits we met experts in their fields of work and



gained practical knowledge. Not only I got technical information that will help me in improving my skills at work and in bringing new techniques and information for my country which needs effective wastewater treatment, but also I had the chance to meet Japanese people and to know more about their cultures, discipline, and hospitality.

At the end, being with partici-

pants from eight different countries is in itself an experience. We made bonds each other and had lots of great memories.

Finally, I would like to express my appreciation to Ms. Akiko Sakono, Program Officer of JICA Kyushu Center, Mr. Kiyoshi Haraguchi, Course Leader, Ms. Ayako Hatano, Training Coordinator, and all JICA staff involved to organize the training.



研修の修了証書を受け取る筆者（右）

## ●コラム

### ダマスカスの魔法の果実 シャーミー・ベリー



この赤と白の果実は、ダマスカスにおける夏の最初の果物の1つであり、主にダマスカス郊外・ゲータ地域の農家が生産・販売しています。ダマスカスの別名である”Sham（シャーム）”からその名を取り、それはアラビア語でアル・トゥートゥ・アル・シャーミー（シャームの桑の実）または英語でシャーミー・ベリーとして知られています。



市場で売られるシャーミー・ベリー

シャーミー・ベリーはアンズとともに毎年5月に旬が始まり、ダマスカスの市場で最初に売られる果物であり、6月後半には旬を終え市場から姿を消す最初の果物です。黄色がかった白い果実も同様に味はよくサイズも大きいなど多くの利点を特徴としながらも、赤い果実の方がダマスカ

スの食卓では人気です。

桑の木はダマスカス市民の心と感情に深く根付いており、民俗文化とも深い関わりがあります。例えば、ロープを木につないだブランコに乗っている間、女性は桑の木に関する特別な歌を口ずさむ習慣があります。また、桑の木が登場しその下で愛が育まれる物語はいくつもあり、多くの詩人が桑の木について創作を行いました。桑の木の下で生まれた愛について、アラビア語にはいくつかの有名な表現があります。

シャーミー・ベリーから搾られる果汁は独特な赤色をしています。ダマスカスに伝わる伝統的な方法で、特に家庭の主婦、小売店主や行商人が自宅で仕込みを行い、ダマスカス市街や市場の路上で販売されます。氷でしっかりと冷やされたジュースは、暑い夏の間ダマスカス市民ののどを潤します。

専門家は、シャーミー・ベリーの果実だけでなく、その果汁にも多くの利点があることを確認しています。ビタミンK、E、Bを含み、これらの栄養素は血行を促進し体の免疫力を高める効果を持ちます。さらに、記憶力の改善にも役立つとともに、歯茎を活性化し口内環境の改善にも

役立ちます。

冬に向けての準備として、ダマスカスでは赤いシャーミー・ベリーを煮詰めてジャムを作ります。ジャムとジュースは似た手法で作られますが、より粘度を高め濃厚な味に仕上げるためには、事前に果実を水で洗わない方が良いようです。

ゲータ地域では、白と赤の実をつける桑の大木を多く見ることができます。葉は大きく美しい緑色をしており、その果実は熟す過程で3つの色に変わります。白い段階ではまだ食べられませんが、ピンクがかった赤い色の時は程よい酸味があります。そして完熟した黒い果実からジュースやジャムが作られます。

桑の木はシリア中に分布しており、特に地中海沿岸地域では蚕の餌としてその葉を使用するため、桑の木は重要な農作物の一つです。桑の木は農薬等を散布する必要がないことで知られており、秋から冬にかけて葉を落とし、雨が幹や枝を伝うことによる自浄作用があります。桑の葉を活用した養蚕により高品質のシルクが生産されるようになったため、ダマスカスはシルクロードにおける発着地点となったとも言われています。（マラハ・モラッド）

#### ホームページ

<https://www.jica.go.jp/syria/index.html>

#### お問い合わせ先（E-mail）

sr\_oso\_rep@jica.go.jp

#### お知らせ

アハバール・カシオンのバックナンバーは左記JICAホームページより閲覧いただけます。次号の発行は2020年10月の予定です。寄稿やお問い合わせはメールにて受け付けております。

#### 編集後記

日本人スタッフが勤務するヨルダンでは3月中旬から外出制限が実施されていたため、今回は約半年ぶりのニュースレター発行となりました。政府による厳格な感染防止策により、ヨルダン国内では感染拡大の抑え込みに成功しており、7月26日現在の累計感染者数は1,310人、帰国・入国者を除いた国内での一日当たりの感染者数はほぼゼロという状況に落ち着いています。しかし各国で第2波が確認される中、感染防止のための「新しい生活様式」に適應することが最も重要だと感じています。（成田）